



第34回 国分川鯉のぼりフェスティバルが開催されました

実行委員長 服部英信

国分川鯉のぼりフェスティバルは、平成3年春木川と国分川の「環境保全」と「水質浄化」の運動として、「甦れ清流」と「子ども達の健全育成」をコンセプトに地域の有志によって始まりました。

平成から令和へ、まさしく時代から時代へと引き継がれ、今年で34回を迎えることが出来ました。令和4年、田中市長より市川3大祭りに認定され、今では市川市北西部を彩る風物詩として定着しており、市内はもとより県外からも大勢の来場者が訪れています。国分川に325尾、会場内に100尾以上の鯉のぼりが、子供たちの夢と希望を膨らませて大空高く泳いでいました。

5月4日の式典は市川市消防音楽隊の演奏に合わせて、子ども達と来賓による鯉のぼり掲揚が行われ式典を盛り上げました。演芸関係は8団体、市役所や国分社協のブース、模擬店46店舗は長蛇の賑わいで、推定1万人以上の来場者で溢れていました。今年は東国分中学校を駐車場として開放しましたので、少なからず交通渋滞が緩和されたと思います。

田中市長の珠玉の言葉（広報いちかわ5月3日号より）

「どんな時にもあきらめない。どんなに辛くとも自分を信じる。

だから、勇気を出してもう一度。」

今後とも市長の言葉を糧に地域のイベントとして、なお一層の努力を重ねて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

環境衛生部だより

担当：本名直吉

5月18日朝9時に総武台公園に集合して、秋に植えた花を取り除き、花壇を整備して、インパジエンスとガザニアを植栽しました。黄色が映えるガザニア、赤が際立つインパジエンスのレイアウトをあれこれと思案しながら植えました。稲越の皆様にも総武台公園の花を觀賞していただければ幸いです。担当した三橋さんからはアサガオの苗の提供もあり夏には総武台公園のフェンスがアサガオで賑やかになりそうです。

